

## No2467

## 有明山

日時：6月21日(日) <前夜発>

参加：小俣(L)、嶋原、岡本、佐々木(記)

日本200名山の有明山へは、大きく2つのコースがある(中房コース、松川コース)。今回の山行は、車とタクシー利用で松川コースを登り中房コースで下る、小俣さん初リーダー山行計画である。

当日の天候予報が雨模様との事であったが、梅雨時期の天気は気まぐれ、覚悟を決めて決行となる。大阪組3名は前夜7時、嶋原車で出発。千葉からの小俣さんは、定期バスで東京から穂高駅へ。

夜1時前に小俣さんと合流し、近くの大きな「道の駅」へ移動し仮眠。じゃまにならないように、屋根下でテントを使わせてもらう。

朝は少し寝過ごしたが、朝食後6時に出発。松川登山口への入口で少し迷ったが、散歩中のおばちゃんに教えられ、緑の木々に覆われた舗装道沿いの路肩に駐車する。

雨は降っていないが、雨具を準備して7時出発。少し道を詰め、10台以上駐車可の馬羅尾沢出会いから沢沿いに木橋と丸太橋を渡り、堰堤を過ぎる。

ここから頂上まで標高差1200mの登り、途中から雨。雨具を付けると、風もなくさすがに蒸し暑い。テープに従って沢を右に左に何回か渡渉するが、水かさはさほどでもない為、足元を少し濡らす程度で心配していた程ではない。



(不動の滝)

歩き始めて2時間程で、大きく綺麗な不動の滝が現れる。滝を巻いて登り沢筋を少し進と、不明瞭だが左に山への取付点があり、いよいよ沢筋から外れ登りに掛る。この地点で標高1450mと標高差800mを残す。

細く滑りやすい、手入れされていない藪道が延々と続く。後で聞いた話だが、この道は長く判りずらく一部崩れ箇所もあり、

現在はあまり登りには使われていないようである。

登る事1時間程で、目印の様な大岩に突き当たる。この大岩を巻き上がる様にキツイ登りをこなし、ジグザグ道と梯子段を懸命に進むと、やっと峠に出て(約1850m)一服。

残り400mの登りだ。水を飲み、息を整えて再



出発。少し登ると祠があり、いよいよ登りも大詰め

の感がある。シャクナゲが多くなり、笹から細かいがしっかりした枝をつかんで、体を引き上げる事ができるようになってきた。依然と急斜面ではあるが、木の根を踏むような登り下りを慎重に進む。



(登山口から少しの所)



(大岩)



(やっとの峠)

ここまでほとんど休憩らしい休憩無しにきた為、腹ペコ状態で最後の踏ん張りがきかない。頂上を前に立ったままの昼食にするが、おにぎり甘いお菓子が美味しい。

歩き出すとなんとなく明かりが指し、空が見え隠れしてくると山頂に近い予感！と同時に、人の声が聞こえてくるように思えてくる。山頂直下周辺の傾斜はキツイが、気持ちで登り切る。

そこには、鳥居と登山者がいる。眺めは白い雲ばかりで何も無いが、登った感は充分である。山頂（2268.3m）の祠に手を合わせると、この先10分程の三角点や中岳から帰ってきた20名程のパーティーで華やいだ。我々も記念写真を撮ってもらい、早々に下山に取り掛かる。



(有明山北岳山頂)



(山頂の鳥居)

下山は中房温泉への道だが、整備された道幅も確保されたコースだ。頂上の登山者のほとんどが、中房温泉へのピストン（標高差800m、登り3時間強）のようであった。

足の疲労もあり慎重に下り、約2時間で有明山荘へ到着。早速にタクシーを予約し、風呂でこわばった体をほぐす。頭の前から靴の中まで、濡れ濡れの体には天国である。

タクシーは松川の駐車場まで約30分（8400円）、あまり登山者が無いように皆で道案内する。147号線で約30分、大糸線「穂高駅」にて小俣さんと別れる。彼女は、5時45分発の新宿行きバスで帰宅。バス時間間に合いましたね！お疲れさんです、ありがとうございました。



我々、大阪組は長野道 安曇野IC（豊科）から無事に帰阪。鳴原さん、岡本さん、車運転お疲れ様でした。改めて小俣リーダーありがとうございました、これからも宜しくお願いします。

#### <参考タイム>

6月21日（日）曇り時々雨

（道の駅）6:00—松川登山口（約1000m）7:00—（馬羅尾沢）—9:00 不動滝—10:05 大岩—10:50 峠分岐（約1850m）11:00—11:50 有明山（下）（昼食）12:10—12:30 有明山 12:40—14:45 有明山荘（風呂）15:50—（タクシー）—16:20 松川駐車場 16:30—17:10 穂高駅—帰阪（23:00 解散）